

きずな通信 No.32



2019年3月1日
発行 みやぎ地域づくり交流会
事務局 宮城公民館内

地域づくりは人づくり、ふるさとづくり

地区伝統行事紹介

旧宮城村が誕生して今年で130年、15年前宮城村は前橋市となりましたが、歴史ある宮城地区には古くから行われている習慣や伝統行事があります。その中で今回三夜沢町赤城神社と鼻毛石町八幡神社の神楽と、大前田町の獅子舞を紹介したいと思います。

赤城神社神楽

赤城神社では、前橋市指定重要文化財の太々神楽が保存会により古くから継承されています。その歴史は、約330年前の貞享元年（一六八四年）徳川5代將軍綱吉公の時代に京都より伝えられたといわれています。座名は神招舞（かみまねぎのまい）から始まり住吉ノ舞（すみよしのまい）まで、独特の名称でよばれています。古くは24座が奉納されたが、現在では5月5日の例大祭で12座、元日の歳旦祭に5座が奉納されています。



緑が美しい赤城神社に神楽を親にお出かけになつてはいかがでしょうか。また、保存会では会員が年々減少し、次世代に伝えることが厳しくなつていくことから、神楽師を募集しています。

連絡先
赤城神社太々神楽保存会
募集担当電話番号

杉下 2833-6930

鼻毛石町八幡神社神楽

鼻毛石町の八幡神社（北爪達也宮司）では、平成28年より秋の例大祭にて巫女による神楽舞の奉納を毎年行っています。

この巫女による神楽は、地区に伝わる伝統行事ではありませんが、古くから神を祭る時に奏でる舞楽で、その起源は天照大御神の「岩戸隠れ」の神話にも遡るといわれています。

八幡神社では巫女神楽として明治以降つくられた「豊栄の舞」と「浦安の舞」を行っています。扇や鈴を持った優雅で大変美しい舞です。

北爪宮司の話では、粕川町の御霊神社では子供たちが巫女舞を披露しているそうです。今後、後継者として興味のある子供達にも教えて行きたいと話していました。

お問い合わせ先

北爪宮司 電話28316401



大前田町獅子舞

大前田町の獅子舞は、江戸時代の初期の頃から今日まで約400年間、大前田諏訪神社に伝承されてきたもので、現在前橋市の無形文化財の指定を受けています。

獅子舞の起源は、その昔、信濃の国（長野県）で猪や鹿の頭を神前に供え収穫を感謝してきたとされています。

大前田町の獅子舞は「龍頭獅子舞」です。その獅子のおおのは「1人立三頭舞」で、獅子には「父」「母」「息子」獅子があり「父頭」と「息子頭」は黒漆塗り、「母頭」は朱漆塗りです。また、父と息子には角が2本、母には角が一本ついています。

他に、ひよつとこ1人、おかめ1人、笛4人、歌唄い3人で構成されています。流儀は「日鉞流」と云われています。

毎年、十月の大前田町の秋祭りでは奉納されていますので是非鑑賞してみてください。

お問い合わせ先

獅子舞保存会会長 中沢徳一
電話 28316706



(上野実 記)

平成30年度

みやぎ地域づくり交流会 地区内報告会

楽しい!

みんな集合!

三夜沢あずき
ケーキ
試食あります



日時: 平成31年3月16日(土)
午後1時30分
場所: 宮城公民館 多目的ホール

入場無料
申し込み不要

今年度の取り組み活動報告

- ふれあい交流部会
- 自然環境交流部会
- 福祉交流部会
- 宮城中学校生ボランティア報告

宮城地区行事
スライド&ビデオ上映
by 広報委員会

特別

地域づくり講演会

(午後2時30分~)

「糖尿病のやさしい話」

前橋赤十字病院 糖尿病・内分泌内科部長
健康管理センター長 上原豊 先生

宮城地区では「運動習慣のある者が少ない」「肥満者の割合が高い」など、糖尿病発症リスクの高い人が多いことが分かっています。少子高齢化に加えて糖尿病発症では将来の介護負担が増大していき、深刻な地域力の低下を招きかねません。そこで、みやぎ地域づくり交流会では、地区の課題である糖尿病予防をテーマに講演会を開催します。